

令和6年度 小樽市立忍路中央小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

前年度の学力向上プランの課題は次の通りである。

国語について学期末確認テスト、チャレンジテストの正答率は72%であり、目標値に達することはできなかったが、誤答に取り組む児童は100%であった。また全国学力学習状況調査の平均正答率は76%であり、全国平均を上回ることができた。

算数科では学期末確認テスト、チャレンジテストの正答率は63%であり、目標値に達することはできなかったが、誤答に取り組む児童は100%であった。また全国学力学習状況調査の平均正答率は58%であり、全国平均に達することはできなかった。

学校評価児童アンケートの結果から、規則正しい生活をしている児童は94%、本をよく読んでいる児童は42%であった。生活習慣の改善を目的に生活リズムチェックシートに取り組み、家庭学習の時間は30分以上の児童が79%、読書の時間が15分以上が42%であり、目標値には達することはできなかった。

- ・個に応じた意図的な指導と学習リーダーを中心とした共感的な授業の構築
- ・複式学級、少人数だからできる授業の構築
- ②基礎・基本の定着と発展問題
 - ・学期末、確認テストの確実な実施と誤答問題の反復学習
 - ・朝のチャレンジタイムを活用した漢字・計算等、反復による基礎・基本の定着
- ③学習規律の確立
 - ・学び方のルーティン化
 - (2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組
- ①複式授業の充実(学習リーダーの育成、自学自習の習慣)
- ②児童が見通しが持てる発問の工夫
- ③単元の見通しを持った指導目標、指導過程の工夫
- (3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組
- ①保護者と連携した望ましい生活習慣の育成
 - ・生活リズムチェックシートの活用
 - ・携帯電話・インターネットの使用時間や情報モラルについての学習会の実施
- ②家庭学習や読書時間の確保
 - ・毎日の宿題や自学の推奨による「学年×10分+10分」の家庭学習時間の確立

2 学年ごとの定着目標(数値目標)

<国語科>

学年	定着目標
1年	・ほっかいどうチャレンジテスト正答率80%
2年	・確認テストに取り組む回数を4回以上
3年	
4年	・誤答に取り組む児童100%
5年	
6年	全国学力学習状況調査の平均正答率を全国平均以上とする。

<算数科>

学年	定着目標
1年	・ほっかいどうチャレンジテスト正答率80%
2年	・確認テストに取り組む回数を4回以上
3年	
4年	・誤答に取り組む児童100%
5年	
6年	全国学力学習状況調査の平均正答率を全国平均以上とする。

<学習・生活習慣(家庭学習等)>

学年	定着目標
1年	・学年×10分+10分の家庭学習を毎日できる。 (60%以上)
2年	
3年	・保護者学校評価で規則正しい生活をしている(90%以上)
4年	
5年	・生活リズムチェックシート毎日読書を10分以上する (50%以上)
6年	

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

①授業改善

- ・「振り返り」から「見通し」のルーティン化された授業の展開

4 実施計画

年月	計画内容
R6年	新年度、学習規律の確認
4月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテストの実施(前年度サポート問題) ○R6全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施(第3学年・第5学年)
5月	・学力向上改善プランの見直し ・保護者会で取り組み説明
6月	・前年度確認テストの実施
7月	○標準学力調査結果分析 ・チャレンジテスト(1学期末問題)の実施 ・1学期確認テストの実施 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・学校評価の実施
8月	○R6全国学力・学習状況調査結果分析 ・生活リズムチェックシートの活用
9月	・保護者へ学校評価分析報告 ○保護者へ調査結果の説明 ○学力向上プランの評価・改善
11月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施
12月	・チャレンジテスト2学期問題 ・学校評価の実施 ・学校評価の分析と改善策の検討 ・2学期確認テストの実施
R7年	・チャレンジテスト冬休み版
1月	・生活リズムチェックシートの実施 ・3学期確認テストの実施
2月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ○新学力向上改善プランの作成
3月	

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

①学校評価（自己評価・保護者アンケート・児童アンケート）により基礎学力定着に向けた取組について評価する。

②全国学力・学習状況調査、標準学力調査、各学期確認テスト、チャレンジテストで基礎学力の定着度を評価する。

(2) 授業改善を図る校内研修の取組

①全学級の授業公開や研究のまとめにより評価する。

②小中併置校の利点を生かし、小中共同で取り組む教育活動を企画し、実践する。

(3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組

①生活リズムチェックシートや保護者アンケート・児童アンケートにより学習習慣・生活習慣の状況の評価する。

②全国学力・学習状況調査（児童質問紙）により評価する。